

# まちなみ通信 **みのお**

発行: NPO みのお市民まちなみ会議 第53号 2014年10月(パネル展特集)

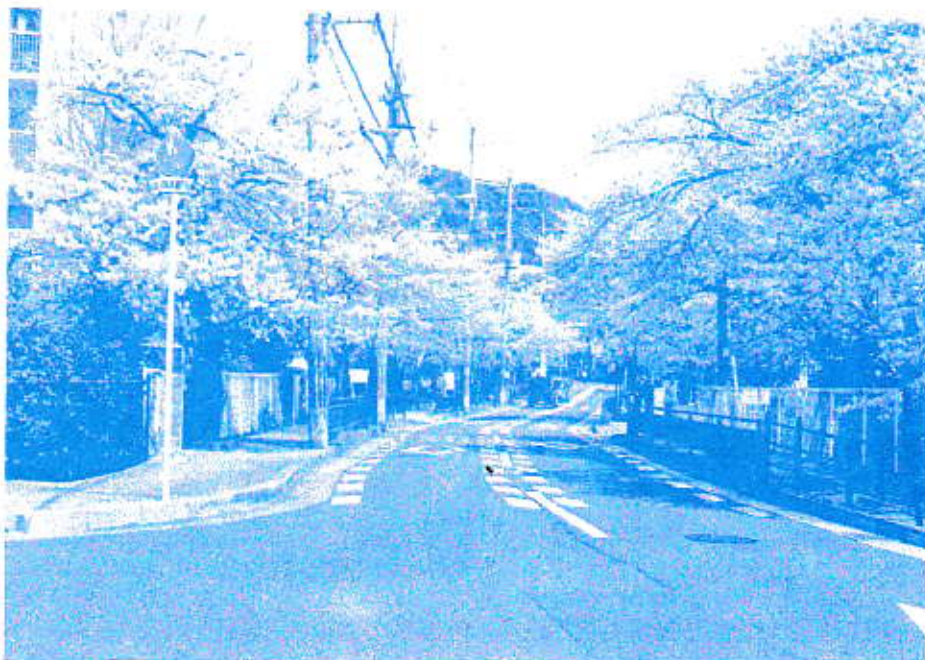
## パネルに込める想い 大写真パネル

箕面市の各町・各丁目の風景を年間を通じて撮影した。膨大な枚数の写真から96枚を選び、パネル展会場入り口を飾る大写真パネルとした。

何故、こんな大きな写真パネルを作ったのか? 昨年緑視率をテーマに市内各所の交差点を中心とした写真を、今回同様に展示し、参観に来られた方々に、強烈な印象を与えた。しかし、多くの方々から、「私の住む町の写真はどれですか?」との質問が寄せられ、私達説明側が戸惑った。

と云うのは、私達の展示の意図は、緑視率を市内各所の165ヶ所で測定計算し、箕面市の緑の多い街、少ない所などを実感して頂く狙いと、都府县市町など自治体の測定データは、沢山報告されておりますが、私達のような民間団体が、箕面市の全域466地点でくまなく平均して写真撮影し、そのうちの165ヶ所で計測した例は無かったので、胸を張って誇らしくアピールする狙いがあった。しかし、前述の様に多くの観客の関心は、ご自分の住む町に深い関心があることが判った。

そこで、私達は今年のパネル展を身近に感じて頂きより関心を持って頂く為に、市内の各町・各丁目毎に四季折々の風景写真を撮り、各丁目毎のベストの風景を展示しようと企画し、昨年4月から一年間写真を撮り続けた。



出足は非常に良かった。どの街に行っても桜並木や大木があり、皆さんご存じの箕面 4,5 丁目の市道オケ原線の桜のトンネル、中央線の枝垂れ桜、八重桜、今宮の墓地公園、市立病院北側千里川沿いの桜並木などの他、各学校には必ず在った。桜は花の時期が短いので、毎日走り回って撮影した。通常、パネルなどには人

の顔が写り込むのを避けますが、南小学校の入学式当日、ピカピカの一年生が立っていた。あまりの可愛さに思わずシャッターを切った。桜は日常は殆ど気付かなかったが、満開の時期には存在をアピールしていた。撮影を終えて箕面にこれ程沢山の桜が在ることに驚かされた。

各家庭でのプランターなどの花づくりも盛んで、それぞれ庭先や塀を飾ったり、敷き際に存在を主張していた。少し遅れてつつじやさつきが咲いた。新御堂筋、山麓線の打越池、粟生間谷東の給水塔下など濃赤紫色の群生が目を取った。船場東のビジネス街、西宿の木戸ヶ池、新稲の皿池などの柳も芽吹いた。雪柳も白い可憐な花を短期間だが主張していた。

続いて田園地帯では菜の花の黄色、れんげのピンクが広がった。石丸のれんげ祭りは有名だが、予想外に多くの田圃でれんげが咲いていた。一方、住宅街の生け垣では、赤目が鮮やかに若葉を赤く彩っていた。

耕運機の心地よいエンジン音とともに、一斉に田植えが始まった。止々呂美の棚田は、前景の集落とともに美しく、市内各所の田圃も整然とした早苗の列が美しい。箕面は戸建て住宅が次々に建てられ、田圃が少なくなる印象が強いですが、市街化調整地域を中心に、農家の皆さんが懸命にみどりを守り育てておられます。



## わたしたちの 花とみどり





## 住む箕面

がいっぱいに!!

梅雨が近づくと、紫陽花が一齐に藍、桃色、白などの花を付けきた。

しかし、順調だったのはその頃までで、街中の木々は一段と緑の葉を拡げて、街の特徴が掴めなくなった。つまりどの街も同じような風景を呈していた。今回の写真は「まちなかの花とみどり」がテーマだけに、出来るだけ街の風景を画面に入れ

て撮影した。それだけに、撮影で街を歩くのも嫌気が先立ち、意欲が薄れた。

そんな中、秋風が吹き始めると、稲田が徐々に色づき、田圃は一齐に黄金色になって来て、赤い彼岸花が、あぜ道に顔を出し、一面の緑に変化が出てきた。しかし体調を崩し、箕面の特徴の銀杏の色づきや、桜、モミジの紅葉の撮影が出来なかった。そのうちに落葉となり街は暗い風景となった。

冬の季節感の撮影に苦しんだ。2月14日朝から雪が降って来た。ラッキー!! 朝から市内各所を走り回って撮影した。かくして、一年掛けた撮影は終了した。

撮影した写真の数が膨大で、いざ各町・各丁目毎に選択することは、非常に苦勞した。箕面市の住居表示で、人が住んでいる所は、各町・各丁目合計 146 で写真の展示できるスペースは 96 に過ぎない。そこで公平を期すため、96/146 の割合で各町の枚数を設定した。(当初計画の各丁目毎の写真展示は出来なくなった)

さらに各町ごとに、写真を選別すると、桜の写真が圧倒的に多くなった。折角、一年掛けて撮影したものが、桜の写真集となつては、箕面の四季の美しさが表現できない。そこで各季節を配慮して、各町毎の割り当て枚数の倍近くを候補写真とした。

続いて、実際のパネルに写真を並べてみた、観客の皆さんに馴染めるように、画面左、上部に止々呂美地区、続いて新稲、桜ヶ丘、瀬川、半町と並べた。そして順次箕面市の東部へ並べた。右端は彩都粟生西町、粟生間谷東、小野原東、小野原西とした。つまり、箕面市の地図を眺めている感覚で、写真をご覧頂けるように配置したのです。

しかし、桜と桜、田圃と田圃、雪景色と雪景色など絵柄、季節、写真の色合いなど、左右上下を比較して、拙い組み合わせが随所に発生したので、これらを調整してようやく完成したのが、大写真パネルです。

皆さんのお住まいの地域の最良の風景写真ばかりではありません。ご容赦下さい。

(大町 凱彦)

## まちなかのみどりを考える

第18回 まちなみパネル展で、「まちなかのみどり」をテーマとして取り上げ、写真約200枚を中心にして紹介することになった。わが箕面では、山なみを含めて「みどり」のある風景は、まちの景観の第一順位の要素と言ってもよいと思う。

だが「まちなかのみどり」とは、いったい何のみどりを指すのだろうか。山なみ景観を論ずる場合だと、「山」という誰がみてもはっきりした対象があるが、「まちなか」となると、対象物のみどりがたくさんあり、また人によって街路樹であったり、生垣であったりに関心の度合いが大きく異なり、共通認識を定めにくい。そこで、「まちなかのみどり」を考えるために、キーワードを使ってみどりの分類・整理を試みた。まちなかにあるみどりは、市民や企業が維持・育成しているもの、行政が管理・維持しているものに大別できる。これらを「民のみどり」、「公のみどり」と呼ぶことにする。

### 《民のみどり》

■玄関先やお店をみどり（花や木）で飾る （左 萱野 右 稲）



玄関先や門扉の前に花鉢やプランターを並べ、四季折々の花を咲かせておられるお家がたくさんあり、まちなみを彩っている。それぞれの家の個性が感じられて街歩きも楽しい。こうしたお家は、昭和の高度成長期以降に開発された住宅地に多い。平成に入ってから住宅は、オープン外構と呼ばれる「塀」がないつくりで、ガレージと前庭が一体となった住宅がほとんどであり、そこに樹木や花が植えられている。

また住宅だけでなく、店の入り口や建物のまわりを花や木で飾ったお店が、箕面にはたくさんある。店主の人柄がうかがわれると同時に、店のイメージアップに大きく繋がっている。

■ 生垣の連なるまちなみ、庭木のあるお屋敷 （左 桜ヶ丘 右 小野原西）



生垣の連なるまちなみは、桜ヶ丘、百楽荘、箕面、瀬川など、大正から昭和初期ころに開発された住宅地に多く残り、みどり豊かなまちなみ景観となっている。しかし残念なことに、相続税対策と思われるが、土地が売却されて分譲住宅となり、生垣が歯抜けになっていくのが多く見られ、淋しいかぎりである。瓦屋根の和風建物に蔵や虫籠窓があり、手入れの行き届いた庭木が塀越しに見えるお屋敷は、新稲、桜、萱野、坊島、白島、小野原東・西、止々呂美などの昔からの集落に集中し、明治への郷愁を誘う。先祖代々大事にされてきたことを思わせる立派な庭木である。

### ■ マンション・集合住宅のみどり



まわりにみどりが無い高層建築ほど味気ない建物は無い。古い集合住宅団地では、棟と棟との間のスペースが広く、樹木も大きく育ち、手入れも行き届いて、みどり豊かな環境になっている。最近建築されるマンションは、みどりをたくみに使い、まちの景観や居住者に配慮した建物になっている。これらは、箕面に住みたいという人のみどりに対する意識の高まりを反映していると言ってもよいだろう。(箕面)

### ■ まちのシンボルツリー 保護樹木・樹林、鎮守の森（神社・お寺）



箕面市の指定する保護樹木（巨樹）は56本、保護樹林は13か所ある（平成25年現在）。枯死や事情による伐採により、年々減少傾向にある。大部分が神社・お寺にあるが、個人所有の樹木もある。大きく茂り、大量の落葉など維持・管理がたいへんと聞く。樹齢何百年の巨樹の伐採は一瞬だが、育てるには百年単位の時間がかかる。悩ましいテーマである。

（西小路 光明寺 大阪府天然記念物の大いちょう）

### ■ ボランティアで花を育てる

公園や緑地、マンションの敷地などで、市民グループや個人がボランティアで花を育てている例が増えてきている。放っておけば雑草だらけになる場所が、美しい花壇に変わる。水やり、草引きなど手入れがたいへんだと思い、頭が下がる。

（半町 イルカグループ）

